



ハ 卒士族下モ一般舊ニ因テ其禄ヲ給シ満
ニ其産ヲ收ルノ日ナカルニ余憶フ七年ノ間
人苟且之謀ヲ樂ニ事旦夕之便ヲ規リ竟
サルカ爲ソナリ而シテ苟モ其禄ヲ存スルハ
テ未其禄ヲ解カス此授産ノ方法未備ヲ
文武ノ常職ヲ解ク然ルニ文武之職ヲ解



授産一斑

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

414
A 1273



七年ニ至テ斷然之ヲ廢スヘシ果シテ之ヲ行
ハント欲スル片ハ其之ヲ令スル必ス初年ニアリ
然ル片ハ人々オトナク不オトナク其令ヲ聞
者昏夢ノ頓ニ醒ルカ如ク苟モ其祿ニ拍着
セス各自力食テ域ニ歸向シ七年ヲ俟タスシテ
必ス其本ヲ立ルニ至ラン此即授産ノ方法ナリ
嗚呼不患無法而患棄法苟不棄法則早
ク人々ヲシテ本ヲ重シ末ヲ抑ヘ游手冗食

世ニ容レラル、所ナキヲ知ラシメ以テ天下之
虛糜ヲ洗滌スヘシ華陽國志曰諸葛亮為
丞相時有言公惜赦者亮荅曰治國以大德不
以小惠故一衡吳漢不願為赦今事雖異
其理即一也矣

此書本年六月大藏省へ指出ス處也誠ニ
區々營窺ノ一斑ナレ用立縣以來授産之
方法目的ヲ可相立ノ公布數面有之余宇

都宮縣ニアル片那須野拓開ノ事ヲ論シ
竟ニ縣ヨリ大藏省ニ相伺フ然ルニ聽許相
成ラス再三押而悉狀スレ氏依々同論タリ
故ニ余立田彰信舊勸農寮七等出仕ニ相逼リ授産
之一端々ヲ説ケ氏鋏下ニテハ一般ノ規則
ニ関ス到底拂下ノ他アルカラスト固ヨリ那
須ノ曠原タルヨク人之知ル處ニシテ分付ス
ルモ猶開ケサランコトヲ恐ル況ヤ孰カ入票ヲ

ナスアラシヤ彼此之際余圖ラス秋田ニ轉ス
其後專ラ小野典事土本寮七等出仕其事ヲ主トル
今日之ヲ觀レハ果シテ共事ナラサルカ如トシ
余憶フ迄ニ授産ノ方法ヲ地方ニ責ルハ
抑モ政府何ノ意タルヲ知ラス而シテ其産
ヲ授クルカ爲メニ荒蕪之地ヲ以テ分付シ
又金穀ヲ以テ貸渡ス等之ヲテ地方ニ
於テ其之ヲ如何ト然ト雖氏舊華族家ハ姑

措キ新華族舊藩ノ上ニ就テ之ヲ見レハ
藩高十分之一ヲ坐糜スル亦依然諸侯ニ
彷彿タル者アリ加賀ノ如キ是ナリ其他推
テ通算スルニ縱令授産ノ方法未宜キヲ工
サレモ豈~~ナ~~如此ニテ止ケンヤ從來大藏
省ノ公費ヲ制限スルヲ見ルニ向キニ旅資表
ヲ以テ改定スルヤ實ニ三回余竊ニ聞ク頃者
官等之上ニ於テ彼此評論アルヲ此レ巨萬

ノ虛糜ヲ遺シテ鎖末ヲ摘ム甚姑息ニ涉
ル者ノ如シ古人曰十年之德樹ヲ植ルニアリ
今也置縣以來既ニ三年ニ垂ントス故ニ云滿
七年ニ至~~ニ~~斷然祿ヲ廢スヘント蓋シ其祿
ヲ廢スルヤ七箇年後ノ事ヲ以テ今日之ヲ
令~~ル~~片ハ各自苟安ノ謀ヲナサス必ス商ニ農
ニ其レ歸着スル處アラシ此法ヤ激ニ過クニ
似タリト雖氏七年之後ニ至テ之ヲ顧シハ

肯テ無慈不仁トノミ云一カラス抑モ華士
族ノ總數ヲ概見スルニ若干萬石ヨリ以下
幾百十段ヲナスヲ知ラス詳カニ之ヲ論スル
ハ若干萬石ヨリ若干石迄ハ滿何年ニ之ヲ
取り何年迄ハ滿某年ニ之ヲ取ル
或ハ華族ハ概シテ五年ニ之ヲ取ルモ可ナラ
ン其施爲着々宜キニ適スル者寔ニ政府ノ
事ニテ肯テ菲才ノ盡ス處ニアラス余嘗テ

聞ク天下ヲ經濟スル愁々ハ閣下ノ他ニアルヘ
カラスト余不堪感激殊死以聞

一 地方一斑

此書授意ノ方法ト同ク既ニ大藏省へ指出
セリ書中ニ所謂從前ノ七等出仕ヲ止メ正
權典事ヲ廢シ更ニ大中小ノ屬ヲ置キ他ノ
官員ト別異セス云々條例曰七等出仕ハ常ニ
置カス事務繁劇ニ涉ルカ或ハ令欠官ナレ

参事ノ職務ヲ輔ク爲ノ便宜ニコレヲ置
クト余也一介ノ軀生ニシテ縣政ヲ濫議ス實ニ
容喙ノ罪大ナリト雖凡余亦縣ノ實際ヲ經テ
親ク目撃スル處ナレハ天下ノ爲ソロヲ指ヲ得
ス抑モ條例ノ書タル置縣ノ初ニ成テ動モ
スレハ其技ヲ盡サス坐上ノ説ニ似タル者アリ
如何トナレハ事務ノ雜劇ニ涉ルヤ例ニ十等
以下ノ事タリ豈奏任以上ノ處ニテ事務

手廻リ兼ル程ノコアラシヤ且令参事欠官ナ
キ亦七等出仕ヲ置ク其縣既ニ多シ夫レ典
事ハ等位判任ノ限區内ヲ出スト雖凡其權カ
ヲ有スル者官省大録ノ此ニ非ス余ヲ以テ之
ヲ見レハ典事ハ令参事ノ前立ニ似タル者ニテ
律ニ事ヲ直ニ長官ニ訴ル云々ノ正條ニ因テ
預メ貫屬ニ備ル者ノ如シ今也貫屬追ミ開
ルノ境ニ進歩シ徐ク時勢ノ正ムヘカラサル

又知ル片ハ宜ク典事ノ權ヲ剥シ其カヲ以テ
各自職課ノ上ニ盡サシムル故ニ云々等出
仕ヲ止リ正權典事ヲ廢スト蓋シ判任ハ令
参事ノ撰薦充黜ヲ專行スル處ニシテ日ニ
檢シ月ニ試シ實ニ秋毫ヲ析クカ如ク知ラス
奏任ノ撰果シテ其宜キヲ得ルヤ曩ニ宮内
大丞ヲ以テ縣令ニ任セラレ其令ノ縣地ニ及
ヤ僅ニ兩月ニシテ又宮内大丞ニ彼官ス吁嗟

高明日月ノ如キモ歲月ノ久キヲ假ラスシテ
何事ヲカナサン況ヤ宮内之事務他ノ地方ト
異ナルヲ固ニ論ヲ俟タス徒ニ混雜ヲ生スルノ
ミニテ恰モ一縣ノ事ヲ并却スルカ如ク秋田
縣是ナリ若夫奏任ヨク其撰ニ當ルモ從前ノ
條例ニヨレハ地方ノ權之クシテ事ニ及ハサルカ
如ク然ト雖氏到底其權與フ可カラス條例
弛フス可カラストナラハ斷然縣名ヲ廢シ以テ

出張所ナシ而シテ大藏省ニテ之ヲ統轄シ
期限ヲ立以テ官吏ヲ更替シ司法出張裁判
所ノ如クナリシノハ事ノ上裁ヲ經ル亦妨ナカル
一ニ然ラサレハ首尾整然法ノ良ナル者ト云ハカ
ラス

右件ノ去ル六月滋賀縣ヲ經テ大藏省へ進
達スル處ナレ氏或ハ恐ル澁滞アラントヲ更ニ
鄙見ヲ相添ヘ恭ク

閣下ニ上ル誠ニ褻瀆之罪免ル、處ヲ知ラスト
雖凡區、激切之至ニ耐ヘス謹取進止

明治六年
八月甲辰

滋賀縣士卷退藏謹白

大隈參議公閣下

[illegible]